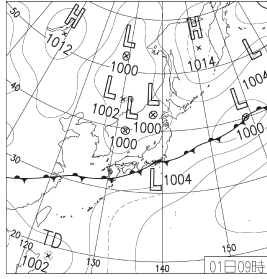


# 日々の天気図

— No. 210

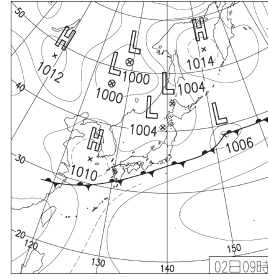
## 2019年7月

- 6月末から5日にかけて、九州南部を中心に約一週間続く大雨。宮崎県えびのでは総雨量1000mm超。
- 19日夜～20日、長崎県五島・対馬市で数十年に一度の記録的な大雨。大雨特別警報発表。土砂災害発生。
- 三宅島と八丈島の月降水量は平年の3倍超。7月1位の値を更新。(気象庁予報部予報課)



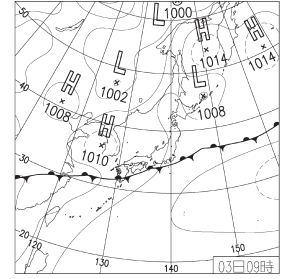
### 1日(月)九州で大雨続く

梅雨前線が停滞する西日本は、九州を中心に大雨続く。鹿児島県東市来の日降水量313.5mmは観測史上1位の値を、鹿児島県八重山の69mm/1hは7月1位の値を更新。



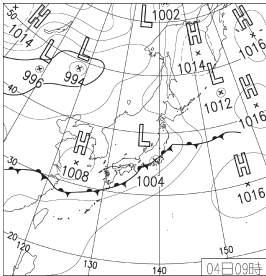
### 2日(火)前線停滞

梅雨前線は九州南部から本州の南岸に停滞し、西～東日本は雨や曇り。鹿児島県田代で73mm/1h、宮崎県間で55mm/1hの非常に激しい雨。北日本は低気圧の通過で雨や曇り。



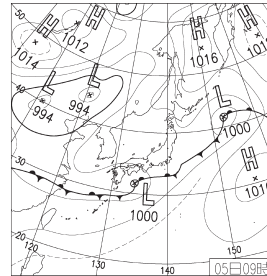
### 3日(水)九州南部で記録的大雨

活発な梅雨前線の影響で九州を中心に大雨続く。鹿児島県吉川別府の日降水量460mmは観測史上1位の値を更新。宮崎県えびのでは6月28日からの総雨量が1000mmを超過。



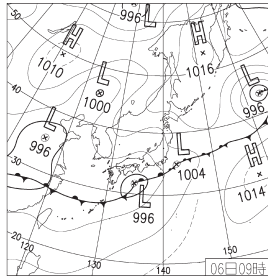
### 4日(木)九州で土砂災害や洪水

梅雨前線が本州南岸に停滞し、前線上を低気圧が北東進。九州南部や東海地方では午前中に所々で非常に激しい雨。鹿児島県中之島の77mm/1hは7月1位の値を更新。



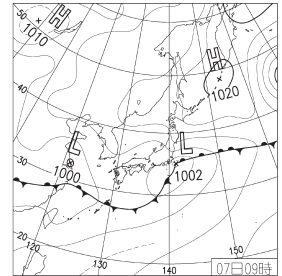
### 5日(金)北日本上空に寒気流入

梅雨前線は日本の南に停滞し、沖縄・奄美や伊豆諸島で大雨。東京都八丈島で日降水量175mm、北日本は上空に寒気が入り大気の状態が不安定。北海道層雲峡で激しい雨。



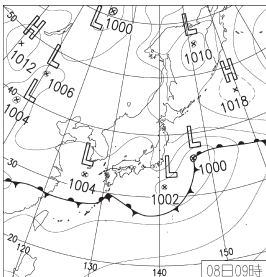
### 6日(土)沖縄で大雨続く

梅雨前線が停滞する沖縄・奄美は曇りや雨で、沖縄県渡嘉敷では明け方に61.5mm/1hの非常に激しい雨。西日本と東日本～北日本日本海側で晴れた所があるが、その他は曇りや雨。



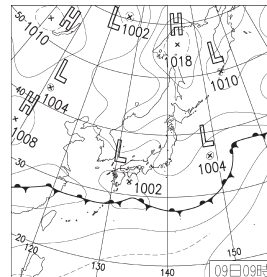
### 7日(日)関東は4月並の肌寒さ

低気圧が関東沖を北東に進み、冷たく湿った空気が流入した関東や東北太平洋側は曇りや雨。東京の最高気温は20.8℃で4月下旬並。北日本の日本海側や西日本は概ね晴れ。



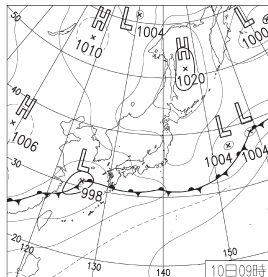
### 8日(月)関東や東北の低温続く

前線や東シナ海の低気圧の影響で沖縄～西日本は曇りや雨。東日本や北日本太平洋側は気圧の谷や湿った空気の影響で概ね曇り。関東や東北は昨日に続き最高気温が4月並の所も。



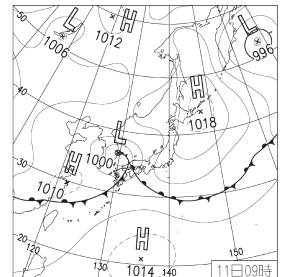
### 9日(火)西日本・北陸で激しい雨

湿った空気や上空寒気の影響で西～東日本を中心に雨。高知県三崎47mm/1h、京都府間人40mm/1h、広島県世羅38.5mm/1hはいずれも7月1位。北海道は晴れて真夏日の所も。



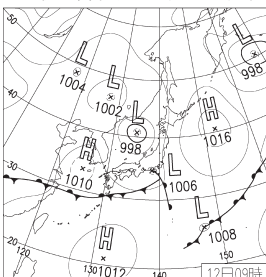
### 10日(水)北から高気圧張り出す

前線が九州から日本の南に停滞。日本付近はオホーツク海の高気圧に覆われる。西日本は曇りや雨。東日本～北日本の太平洋側では曇りの所が多く、日本海側では概ね晴れ。



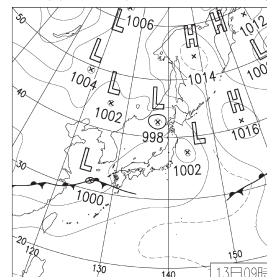
### 11日(木)沖縄～東北で雨

日本海の低気圧からのびる前線の通過に伴い、沖縄～東日本は雨で、高知県室戸岬では58.5mm/1hの非常に激しい雨。東北も夜には雨。東京都父島でも前線の影響で激しい雨。



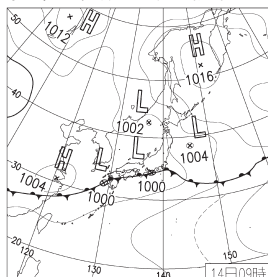
### 12日(金)関東～東北で雨続く

低気圧が日本海と東海道沖を北東に進み、西日本の日本海側と東日本～北日本で雨や曇り。東京も夕方まで弱い雨続く。沖縄と西日本の太平洋側は午後を中心に晴れ。



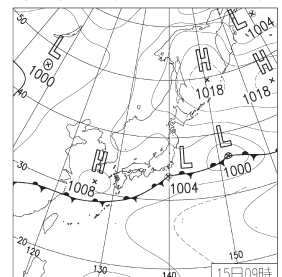
### 13日(土)奄美で梅雨明け発表

低気圧が東シナ海から九州に進み、西日本は雨。東日本も次第に雨。北日本は日本海の低気圧の影響で北海道を中心に雨。東京の最高気温は27.3℃で9日ぶりの夏日に。



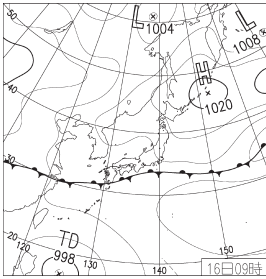
### 14日(日)全国的に低温

前線が九州～関東付近に停滞し、前線上を低気圧が東進。西日本～東北は雨や曇り。北海道は湿った空気の影響で雨。全国的に気温が上がり、最高気温が4月並の所も。

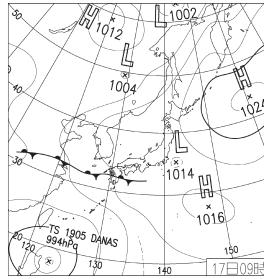


### 15日(月)梅雨前線停滞

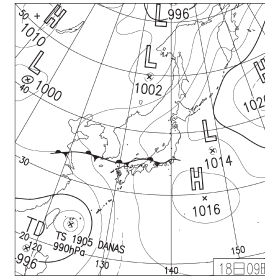
日本の南に停滞する梅雨前線を低気圧が東進し、西日本太平洋側と東日本は雨。北日本は、気圧の谷の影響で曇りや雨。沖縄は太平洋高気圧に覆われて、晴れて真夏日に。



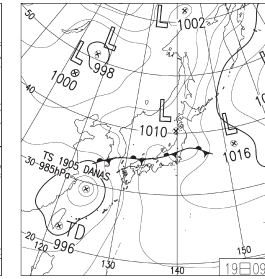
**16日(火)台風第5号発生**  
 梅雨前線は九州から本州南岸に停滞し、九州南部と東日本太平洋側は雨。上空約5500mの-6℃以下の寒気が南下して大気の状態が不安定となり、午後は西日本～東北で所々雨や雷雨。



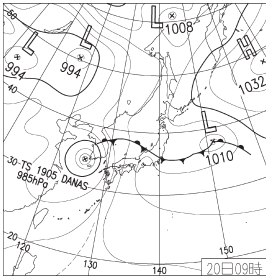
**17日(水)関東で晴れ間広がる**  
 九州から本州南岸に前線停滞、明け方にかけて近畿～関東の所々で激しい雨。日中は西～東日本で晴れた所多く、東京は約3週間ぶりの青空。北日本は湿った空気の影響で雨の所も。



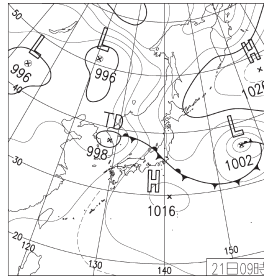
**18日(木)高知県で猛烈な雨**  
 台風第5号が先島諸島付近を北上、沖縄県北原で最大瞬間風速30.3m/s、本州付近に停滞する前線の活動が活発となり、西日本～東北は雨で、高知県佐賀では89.5mm/1hの猛烈な雨。



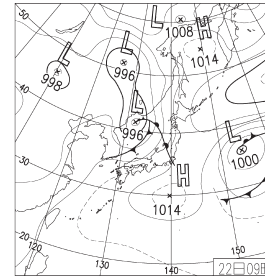
**19日(金)大雨続く**  
 暖かく湿った空気や活発な梅雨前線などの影響により、西日本を中心に大雨。宮城県北方で68.5mm/1hなど5地点で非常に激しい雨。北海道音威子府56.5mm/1hは観測史上1位。



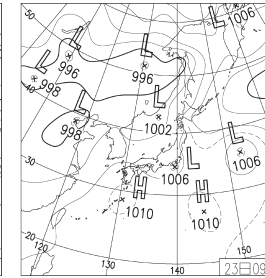
**20日(土)長崎県に大雨特別警報**  
 東シナ海を台風第5号が北に進んで南から暖かく湿った空気が入り、長崎県の離島中心に大雨。五島と対馬には大雨特別警報。長崎県有川の1日降水量347.5mmは7月1位を更新。



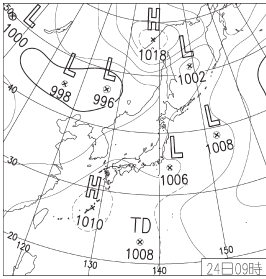
**21日(日)富山で最高気温35.2℃**  
 台風第5号は朝鮮半島から日本海に進んで21時観測で温帯低気圧に、南からの暖かく湿った空気の影響で西日本では大雨が続く。福岡県久留米の1日降水量323.5mmは観測史上1位。



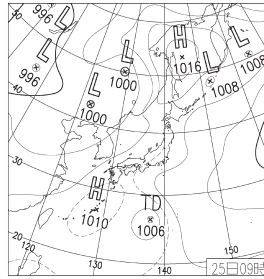
**22日(月)西日本、東海で大雨**  
 日本海の低気圧に向かう暖かく湿った空気の影響で西日本や東海で大雨。静岡県掛川で80mm/1hの猛烈な雨。愛知県、静岡県では記録的短時間大雨情報発表。東京でサルスベリ開花。



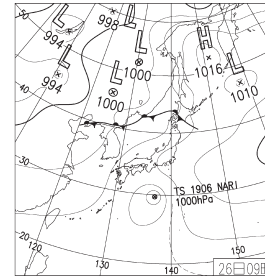
**23日(火)所々で非常に激しい雨**  
 湿った空気や上空の寒気の影響で、全国的に大気の状態が不安定。西日本～北日本の各地で雨となり雷を伴う所も。富山県の宇奈月で62mm/1hの非常に激しい雨。



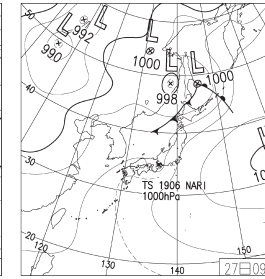
**24日(水)各地で梅雨明け発表**  
 西日本を中心に高気圧に覆われ、九州、四国、近畿、北陸で梅雨明け発表。東日本～北日本は所々で雨。福島県白河の94.5mm/1hは観測史上1位。日本の南海上で熱帯低気圧発生。



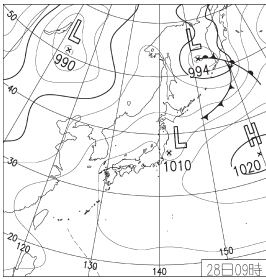
**25日(木)中国地方梅雨明け発表**  
 沖縄～西日本は南西諸島の高気圧に、東日本は日本のはるか東の高気圧に覆われて概ね晴れ。午後は山沿い中心に雨や雷雨。福井県美浜で35.9℃など、西日本～北陸で猛暑。



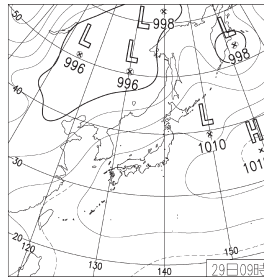
**26日(金)台風第6号発生**  
 沖縄～東北で晴れて気温が上昇。広く真夏日となり36地点で猛暑日。台風周辺の湿った空気の影響で、午後は西～東日本太平洋側を中心に所々雨や雷雨。北海道は前線の影響で雨。



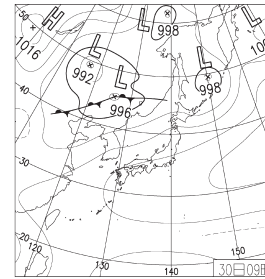
**27日(土)台風第6号上陸**  
 台風第6号は三重県南部に上陸。その後熱帯低気圧に変わって関東へ。新潟県赤谷では52.5mm/1hの非常に激しい雨、和歌山県潮岬では25m/sの最大瞬間風速を観測。



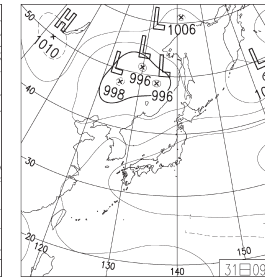
**28日(日)東海で梅雨明け発表**  
 関東の東の低気圧の影響で、東日本～東北は午前中雨。午後は大気の状態が不安定で、山沿いを中心に雨や雷雨。新潟県高根の64.5mm/1hは7月1位の値を更新。



**29日(月)関東甲信梅雨明け発表**  
 高気圧に覆われるが湿った空気や日中の昇温の影響で大気の状態が不安定。群馬県伊勢崎で62.5mm/1h。最高気温は岐阜県揖斐川37.2℃をはじめ全国の約1/4の地点で今年の最高。



**30日(火)札幌、旭川で熱帯夜**  
 北日本の一部を除き晴れて暑さ続く。全国88地点で猛暑日。北日本は最低気温が高く、北海道札幌27.4℃、旭川12.5.0℃は共に観測史上1位。東北南部梅雨明け発表。

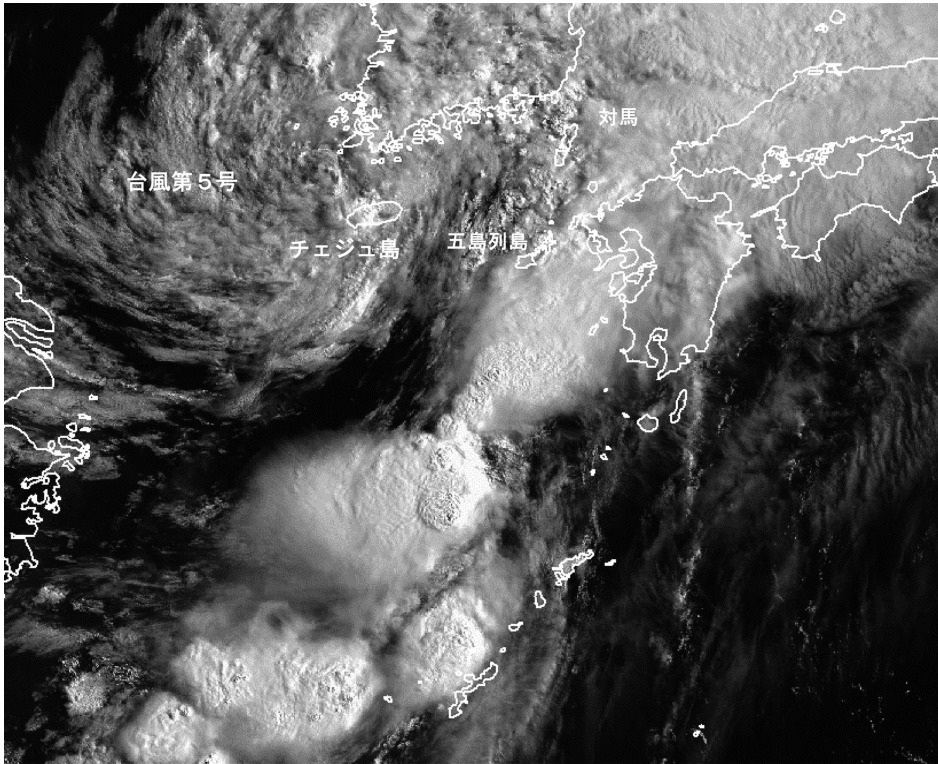


**31日(水)東北北部梅雨明け発表**  
 全国147地点で猛暑日となり、今年初めて100地点以上に、北海道礼部の最高気温は33.6℃で観測史上1位。午後は西～東日本の山沿いを中心に雨や雷雨で、非常に激しい雨の所も。



## 今月のひまわり画像—2019年7月

### 五島列島と対馬に大雨をもたらした積乱雲



第1図 2019年7月20日08時30分（日本時間）の東シナ海付近の可視画像。

第1図は、2019年7月20日08時30分（日本時間）の東シナ海付近の可視画像である。チェジュ島の北西に見えるのは北上している台風第5号の雲域である。この台風周辺や太平洋高気圧の縁辺から流れ込む暖かく湿った空気が九州の西海上で合流し、100kmほどのスケールを持つ発達した積乱雲の塊が南西—北東走向にライン状に並んでおり、その迫力の一端が見てとれる。雲頂高度の最も高い領域は、 $T_{BB}$ （等価黒体温度）によると $-80^{\circ}\text{C}$ より冷たく、高度にして約16kmに達していた。

五島列島や対馬に大雨をもたらした積乱雲は、19日夜遅くから20日昼過ぎにかけて、ほぼ同じような場所で南北に連なって発生し、かかり続けた。20日08時40

分までの1時間に対馬市美津島付近で約110mm、10時30分までの1時間に五島市付近で約110mmの猛烈な雨が解析され、記録的短時間大雨情報が発表された。長崎県の五島と対馬市では数十年に一度の記録的な大雨となり、10時05分に昨年の平成30年7月豪雨以来となる大雨特別警報が発表された。

20日16時10分までの24時間に対馬市厳原で306.0mm、16時40分までの24時間に新上五島町有川で374.5mmの降水量となり通年の極値を更新した。この大雨の影響で、長崎県内では浸水被害24棟、がけ崩れ12件（7月31日現在）が発生し、ライフラインへの被害や交通機関の運休が相次いだ。

（気象庁予報部予報課 河野麻由可）